News Release

BIPROGY

日本ユニシス株式会社から2022年4月1日に社名変更しました
BIPROGY株式会社

2024 年 10 月 18 日

# 三菱重工グループの共通直接材調達・購買管理システムに 製造業向け調達・購買ソリューション「eBuyerBrains」を提供

～調達関連情報の可視化と購買データのリアルタイム活用で、迅速な意思決定を支援～

BIPROGY は、三菱重工業株式会社（取締役社長 CEO：泉澤 清次氏、以下 三菱重工）のグループ共通の直接材調達・購買管理システムに製造業向け調達・購買ソリューション「eBuyerBrains（イーバイヤーブレインズ）」を提供し、2024 年 9 月から稼働を開始しました。三菱重工は、「eBuyerBrains」の導入により、「購入要求」、「見積」、「発注」、「検収」などの業務プロセスの効率化だけでなく、業務を通じて蓄積されるデータをリアルタイムに活用できます。そのため、原材料や部品などの調達業務に関する迅速な意思決定と、より付加価値の高いデータ分析やコスト削減に向けた戦略立案業務に注力することも可能になります。
今後も BIPROGY は、製造業における直接材調達業務の DX を推進し、調達・購買関連業務の高度化と効率化を支援していきます。

**【背景】**

直接材（原材料や部品など生産に直接必要な材料）の支出額は一般的にメーカーが年間で支出する費用の大部分を占めており、その内容を適正化することで、数億円規模でのコスト改善も可能になる領域です。しかし、市場規模などの要因から、間接材（副資材や工場消耗品など直接材以外の購買品）を対象にした調達・購買管理をサポートするソフトウエア製品などは多く存在しますが、直接材を対象にしたものは少ないため、直接材の調達や購買業務を ERP で管理している企業も少なくありません。ERP は企業全体の情報を一元管理できる優れたシステムですが、調達部門の業務効率向上に有用な情報管理や環境問題への配慮などの点で不十分な点もあり、直接材の調達・購買関連業務の高度化や効率化を最大限図るためには課題も存在します。

**【概要】**

三菱重工グループでは、「リアルタイム経営の実現」、「グローバル ONE ポリシー」、「コスト低減」、「ゼロペーパー」のコンセプトのもと、基幹システムの高度化を進めており、その一環として直接材調達・購買管理システムについても新システムへの更新を検討していました。また、多岐にわたる事業領域に取り組んでいることから、各事業で最適化された調達・購買関連の類似システムが複数存在しており、迅速な意思決定に取り組むためには、全社での購買データ分析や調達関連情報の可視化に課題がありました。
従来、直接材調達・購買管理システムには ERP の機能を利用していましたが、全社利用可能な共通機能と事業領域ごとに個別対応が必要な部分を整理し、直接材調達業務に強みを持つ「eBuyerBrains」を中心に全社共通の調達・購買管理システムを新しく構築しました。それにより、全社で調達関連業務を可視化できるだけでなく、「購入要求」、「見積」、「発注」、「検収」などの業務プロセスや業務を通じて蓄積されるデータをリアルタイムに活用した調達分析や、サプライヤー管理も可能になりました。また、調達担当者の情報集計作業をデジタル化することで、集中購買や内製化の検討、原材料の標準化など、より付加価値の高いデータ分析やコスト削減に向けた戦略立案業務に注力することもできます。

**【eBuyerBrains について】**

eBuyerBrains は、「見積」、「発注」、「検収」などの基幹業務に加えて、サプライヤー管理機能や調達分析機能などの管理業務や意思決定支援までを広範囲に購買・調達業務をデジタル化し、調達 DX を実現する統合調達ソリューションです。購買基幹業務、ソーシング、EDI（Web 発注システム）、ポータル、マスター管理、実績分析、単価査定などの要素で構成されており、部分的な導入も可能です。

**・調達業務を広く網羅した統合システム**

調達業務の全体像を分析し、メイン業務だけでなく周辺業務やバイヤー業務全体の支援が可能です。直接的な分析機能（コスト査定など）だけでなく、災害時のサプライチェーン状況管理、サステナブル調達の観点からのサプライヤー調査など、社会的な課題から重要度が増しつつある機能の拡充も実現しています。

**・多様な状況に柔軟に対応**

調達・購買業務内容と、そのデジタル化の状況は業種や企業ごとに異なります。「eBuyerBrains」では、調達業務を広範囲にカバーする機能を備えつつ、自社が必要とする機能のみを選択して利用するカスタマイズ化にも対応することで、多様な状況に適した調達システムを実現しています。

**・サプライヤーの利便性にも配慮**

バイヤー業務だけでなく、サプライヤー側の視点からも機能を検討し、情報共有方法やダウンロード機能のアレンジなど、サプライヤーと相互に協力しあえる体制を支援しています。

**・周辺基幹システムとも連携**

品目コードや仕入先コードなどのマスター類の連携や、検収データと会計システムの連携など、調達・購買システムは周辺システムとの連携が不可欠です。「eBuyerBrains」は定型フォーマットによるインターフェースも用意しており、周辺システムとのスムーズな連携を支援しています。

**【今後の取り組み】**

BIPROGY は、「eBuyerBrains」の機能やサービス形態の拡充を行い、デジタル化が進展していない製造業における直接材調達業務の DX を支援していきます。また、製造業の調達 DX を進めていくことで、調達・購買業務の高度化に貢献し、サプライチェーン全体のデータ可視化や生産性向上に取り組んでいきます。

以　上

**■関連リンク：**

製造業向け調達・購買管理／サプライヤーマネジメント eBuyerBrains
https://www.biprogy.com/solution/service/srm.html

※eBuyerBrains は、BIPROGY 株式会社の登録商標です。
※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>
https://www.biprogy.com/newsrelease_contact/

## Vision2030

わたしたちは、デジタルコモンズを
誰もが幸せに暮らせる社会づくりを推進するしくみに育てていきます

私たちは志や共感をベースに持続可能な社会の実現を可能にするために、
さまざまなサービスやノウハウをデジタルの力でつなぎ合わせ、
社会の共有財であるデジタルコモンズとして創造し、提供していきたいと考えています。
その実現に向けて、ビジネスエコシステムのパートナーと共に
多様な業界、業種、マーケットの視点から社会に貢献することにより、新たな価値やマーケットの創出につなげていきます。